

平成 17 年度 第 2 回 基礎水理部会 議事録(案)

日時：平成 18 年 3 月 9 日 12:25～13:30

場所：京都大学 共北 33 講義室

出席者：泉，伊藤，大本，鬼束，里深，清水(康)，清水(義)，関根，高濱，竹林，羽田野，
藤田(一)，藤田(裕)，細田，安田，山坂 (五十音順)

報告事項

1. 議事に先立ち，部会長から，関根委員・清水委員(義)を幹事としてお願いした旨の報告があった。

2. 水工学委員会（幹事会）報告

関根委員より，資料 1 に基づき，前日の 3 月 8 日に開催された水工学委員会に関して，次のような報告がなされた。

- ① 土木学会論文集第Ⅱ部門の椎葉委員長から水工学委員長になされた説明について報告があった。既発表の内容が含まれていると，ともすれば「既発表」の言葉を拡大解釈して拒絶されることがあった事情を考慮し，再検討を行ったところ，既発表の内容を含んでいても新たな知見が盛り込まれている論文や既発表の複数の論文を一貫した論理のもとに再構成した論文であればひとつの独立した論文と見なして審査対象とするとの方針が示された。あわせて，土木学会論文集への積極的な投稿が呼びかけられた。
- ② 水工学論文集の編集作業を電子化した，そのメリットがあまりなく，むしろいくつかの問題が生じることになった。今後は，こうした編集過程での問題点について，取り扱い業者に事情を聞くなどして改善を図っていく。
- ③ 水工学講演会の企画として今回の記念大会で実施した国際セッションについては，今後も継続する方向で検討する。

その他，部会において，水工学論文集の査読結果（否）の著者への送付の文書が必ずしも真意が伝わるものになっていないとの指摘があった。

3. 各研究分科会の報告

- ① 「数理水理学の現状と展望」分科会

細田委員より資料 2 に基づき説明があり，2005 年 11 月の松江高専での研究会の報告と，今後の活動予定の紹介がなされた。

- ② 「河床変動計算システム検討」研究分科会

竹林委員より，4 つのソースコード(細田，清水(康)，竹林，国総研)が動いており，一般座標系を用いたものを 4 月か 5 月にリリースしたい，今後は準 3 次元問題を取り扱えるものや，日本語バージョンだけでなく英語バージョンについても検討していく，との報告があった。

これに関連して，清水(義) 委員より，基礎水理部会委員が活躍している学会外部と共同した活動については，水工学委員会や基礎水理部会の名を冠して委員会や部会が自然と評価され，定着するような工夫をすべきである，旨の発言がなされた。

- ③ 「伝統的河川工法」研究分科会

大本委員より，2005 年 5 月に予定していた現地見学会は，国土交通省との調整ができず開催できなかった。来年度は是非実施したい旨発言があった。

④ 「河川構造物等に作用する流体力と流れ」研究分科会

部会長より、世話人が交代したこと、第4回シンポジウムを開催する方向で進んでいたが実施方法などの検討を行なっている段階であること、できれば日本大学郡山で研究会を行ないたいこと、などの報告があった。

⑤ 「IT」検討ワーキング

藤田(一)委員より、資料3に基づき神戸大学のHPに掲載していることが紹介された。今後、学生の興味を引きそうな実験の写真などがあれば関連してリンクを貼って紹介できるように情報提供をお願いしたい旨の発言があった。

⑥ 「粘着性材料の侵食特性と流砂モデル」研究分科会

関根委員より、2005年12月に予定していた研究会は事情が許さず実施できなかったが、今後の実施を予定している旨の発言があった。

審議事項

1. 議事録の確認

平成17年9月開催の、平成17年度第1回基礎水理部会の議事録(案)が承認された。なお、議事録(案)の「審議事項」のうち、訳書出版の件は、部会として出版するまで意見が集約できなかったもので差し控えることにした旨、部会長から報告された。

2. 委員の交代

中川(一)、大谷英夫の各委員の退任の申し出があった旨が報告され、了承された。大谷氏は所属部署の変更のため、若手の委員の就任により活性化することが必要なことから、部会長の方で、委員就任の規則を確認して条件整備することになった。

3. その他

清水委員(義)より、部会間の横断的連携による活動を促進していいかどうかという発言があった。例えば、河川部会と連携して現場の問題を基礎水理の立場からコメントする局面が多々あること、現場に必要な水理学の講習会など多くの努力を要せずに効果を上げられる活動があるはずとの指摘がなされた。